

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7111

業務実績書

研究所 No77

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上																						
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言((1))																						
【事業概要】 地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。																							
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸																				
【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟(以上、無形文化遺産部)																							
【主な成果】 平成 21 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁芸術文化課文化活動振興室への 8 件の助言を始め、30 件の助言を実施した。																							
【年度実績概要】 平成 21 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。 <table border="0"><tr><td>1 文化庁芸術文化課文化活動振興室</td><td>8 件</td></tr><tr><td>2 文化庁伝統文化課</td><td>3 件</td></tr><tr><td>3 財団法人文化活性化国民協会への助言</td><td>8 件</td></tr><tr><td>4 財団法人日本青年館への助言</td><td>4 件</td></tr><tr><td>5 日本芸術文化振興会への助言</td><td>2 件</td></tr><tr><td>6 萩市教育委員会への助言</td><td>1 件</td></tr><tr><td>7 日本放送協会への助言</td><td>1 件</td></tr><tr><td>8 (社)伝統歌舞伎保存会への助言</td><td>1 件</td></tr><tr><td>9 国立国会図書館への助言</td><td>1 件</td></tr><tr><td>10 日本青年団協議会への助言</td><td>1 件</td></tr></table>				1 文化庁芸術文化課文化活動振興室	8 件	2 文化庁伝統文化課	3 件	3 財団法人文化活性化国民協会への助言	8 件	4 財団法人日本青年館への助言	4 件	5 日本芸術文化振興会への助言	2 件	6 萩市教育委員会への助言	1 件	7 日本放送協会への助言	1 件	8 (社)伝統歌舞伎保存会への助言	1 件	9 国立国会図書館への助言	1 件	10 日本青年団協議会への助言	1 件
1 文化庁芸術文化課文化活動振興室	8 件																						
2 文化庁伝統文化課	3 件																						
3 財団法人文化活性化国民協会への助言	8 件																						
4 財団法人日本青年館への助言	4 件																						
5 日本芸術文化振興会への助言	2 件																						
6 萩市教育委員会への助言	1 件																						
7 日本放送協会への助言	1 件																						
8 (社)伝統歌舞伎保存会への助言	1 件																						
9 国立国会図書館への助言	1 件																						
10 日本青年団協議会への助言	1 件																						
【実績値】																							
【備考】																							

自己点検評価調書

研究所 No77

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼がコンスタントに寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものとする。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7112

業務実績書

研究所 No78

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言((1))		
【事業概要】 地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
【スタッフ】 中山俊介、北野信彦、早川典子、加藤雅人、森井順之(以上、保存修復科学センター)、坪倉早智子(客員研究員)			
【主な成果】 今年度は、件数として40件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちが新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。			
【年度実績概要】 ・財団法人日本航空協会評議員 (川野邊 渉) ・有限責任中間法人国宝装演師連盟資格試験委員会 (川野邊 渉) ・石川県文化財保存修復工房運営委員会 (川野邊 渉) ・京都国立博物館文化財修理所運営委員会委員 (川野邊 渉) ・奈良国立博物館文化財修理所運営委員会委員 (川野邊 渉) ・九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員 (川野邊 渉) ・史跡原爆ドーム保存技術指導委員会委員 (川野邊 渉) ・財団法人日本航空協会航空遺産継承基金専門委員 (中山俊介) ・重要文化財・新垣家住宅「東ヌ窯」の修復に関する指導助言 (川野邊 渉) ・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之) ・特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之) ・国宝白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之、早川典子、朽津信明) ・厳島神社の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、北野信彦、早川典子、森井順之) ・特別史跡・キトラ古墳壁画の陶板復元に関する指導助言 (川野邊 渉、早川典子) ・重要文化財・霧島神宮本殿の修復に関する指導助言 (川野邊 渉、早川典子、森井順之) ・国宝・白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、早川典子、森井順之、朽津信明) ・史跡・大分高瀬石仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・史跡・大分元町石仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・大分県指定史跡・川中不動の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・根津美術館蔵「石造八角経幢」の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・ひたちなか市武田西塙遺跡出土「わらじ炭化物」の保存処理に関する指導助言 (北野信彦、森井順之) ・重要文化財・0.5t及び3tスチームハンマーの修復後モニタリングに関する指導助言(森井順之) ・京都市中出土歴史資料の保存修復及び分析に関する指導・助言 (北野信彦) ・鹿苑寺不動堂石室内の不動像石仏の保存修復に関する指導・助言 (北野信彦) ・春日社古墳出土皮盾の保存修復に関する指導・助言 (北野信彦) ・松平忠雄公墓所出土副葬品の保存、修復、管理に関する指導・助言 (北野信彦) ・重要文化財富岡製糸場の鉄製水槽の保存修復に関する指導助言 (中山俊介) ・第5福竜丸の船体及びエンジンの保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) ・陸上自衛隊入間基地内修武台記念館内における航空機の保管環境に関する指導助言 (中山俊介) ・神奈川県指定重要文化財・英勝寺仏殿蛙股の修復に関する指導助言 (森井順之)			
他			
【実績値】 指導助言実施件数 : 40件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7112

自己点検評価調書

研究所 No78

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順 調	今年度は、件数は40件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得るように努力する。

業務実績書

研究所 No 79

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し援助・助言を行う。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			
【主な成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)337 件(委員会出席 109、審議会出席 13、指導 50、調査 62、講演 21、その他 82)			
【年度実績概要】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。 ①地方公共団体等による文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等で行った。(「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存に関する調査研究、島根県津和野町社寺建築調査、奈良県近代和風建築総合調査など) ②地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡・名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言を行った。(小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究、天良七堂遺跡の総合的調査、胡桃館遺跡詳細分布調査、三軒屋遺跡総合的調査、長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復、藍住町出土布の保存調査、史跡ガランドヤ古墳石室石材劣化調査、史跡加賀藩主前田家墓所石造物保存対策調査、重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存処理など) ③文化庁事業「発掘調査の手引き」の刊行は、1966 年の初版以来、改訂が重ねられてきたが、このたび、40 年ぶりに全面改訂を行うこととなった。本研究所は文化庁の委託を受けて、文化庁文化財部記念物課及び地方公共団体と協同して、「集落遺跡発掘編」及び「整理・報告書編」を刊行した。			
【実績値】 援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数) 337 件 (委員会出席 109 件、審議会出席 13 件、指導 50 件、調査 62 件、講演 21 件、その他 82 件)			
【備考】			

自己点検評価調書

研究所 No 79

1. 定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：依頼機関への対応 適時性：実施業務に適時・適切に対応 発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現						

2. 定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈文研に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京城発掘調査への援助・助言(1)				
【事業概要】 平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重要地区内において、近年とみに小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮及び宮周辺における奈良時代を含む各時代の土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。					
【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 井上和人		
【スタッフ】 難波洋三、国武貞克、芝康次郎、神野恵、森川実、城倉正祥、中村亜希子、今井晃樹、林正憲、森先一貴、渡辺晃宏、馬場基、浅野啓介、桑田訓也、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡、[以上、都城発掘調査部]					
【主な成果】 平成 21 年度は、平城宮・京城で、計 8 件の発掘調査を実施した。その結果、海龍王寺旧境内においては、現存する海龍王寺の北土堀のほぼ東延長上で、土堀の可能性のある奈良時代中期の整地層を検出し、興福寺旧境内では平安時代末頃の土器を大量に廃棄した土坑、奈良時代と中世・近世の築地と側溝、中世の路面を検出した。					
【年度実績概要】 平城宮に密接に関連する平城京城発掘調査への援助・助言は総数 8 件あり、そのほとんどが開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 208 m ² 、調査期間は平成 21 年 5 月 11 日～平成 22 年 2 月 23 日の間で、延べ 89 日におよぶ。					
次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
456	海龍王寺旧境内	住宅建設	22 m ²	090511～090518	奈良時代初頭の土坑や奈良時代中期の整地層を検出。
459	平城宮北方遺跡	住宅建設	12 m ²	090601～090605	中世の土坑と溝を検出。
460	平城京左 1.2.9	住宅建設	21 m ²	090709～090716	奈良時代の柱穴 2 基のほか、炭化物を含む古代の土坑などを検出。
461	平城京左 1.2.16	住宅建設	18 m ²	090805～090819	古代の大型土坑 2 基を検出。1 基は火災後の廃棄土坑で、もう 1 基には板状の石が折り重なる。
462	平城京左 2.2.14	住宅建築	36 m ²	090907～090914	奈良時代の遺構面を確認。柱穴 1 基を検出。
465	興福寺旧境内	バス停建設	43 m ²	091208～100129	奈良時代と中世・近世の築地側溝を検出。
467	興福寺旧境内	住宅建設	50 m ²	100202～100217	東六坊大路東側溝と考えられる奈良時代の南北溝を検出。
立会 2009—7	興福寺旧境内	排水管付替	6 m ²	090512～090515	平安時代末頃の土器を大量に廃棄した土坑、築地と側溝、中世の路面を検出。
【実績値】 論文等数 : 3 件(①～③) 出土品 : 瓦磚など 90 箱、土器 80 箱、金属器・木器・石製品など 10 箱 記録作成数: 実測図 35 枚、遺構写真(4×5)約 80 枚					
【備考】 ①浅野啓介「海龍王寺旧境内の調査—第 456 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定) ②浅野啓介「平城宮北方遺跡の調査—第 459 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定) ③国武貞克「興福寺旧境内の調査 立会 2009—7」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)					

自己点検評価調書

研究所 No 80

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：奈良県教育委員会および奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査を実施した。 継続性：データ収集のため、規模の大小にかかわらず発掘調査を継続的に実施した。 正確性：文化財行政に協力し、正確な調査を実施した。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考 対象地区内の開発行為に、すべて対応した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

業務実績書

研究所 No 81

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 ((1))				
【事業概要】					
飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6世紀末から8世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。					
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長 深澤芳樹		
【スタッフ】					
玉田芳英、次山 淳、降幡順子、豊島直博、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高田貫太、庄田慎矢、石田由紀子、加藤雅士、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津〔以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)〕、井上直夫、岡田 愛〔以上、企画調整部〕					
【主な成果】					
特別史跡藤原宮跡、特別史跡山田寺跡、史跡川原寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は6件あり、主に史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、川原寺旧境内の調査では、川原寺の創建瓦を含む遺物包含層を確認した。					
【年度実績概要】					
特別史跡藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は7件あり、主に史跡の現状変更に対する事前調査である。					
次 数	調査地	調査原因	面積	調査期間	概 要
158-1 次	藤原宮跡大極殿院南門	現状変更	4 m ²	2009. 6. 3	遺構面に達せず。
158-2 次	藤原宮跡植栽	現状変更	8400 m ²	2009. 8. 17～8. 28	遺構面に達せず。
158-3 次	川原寺跡	住宅建設	22 m ²	2009. 11. 16～20, 2010. 3. 5	瓦包含層検出。
158-4 次	山田寺跡	現状変更	111 m ²	2010. 1. 6～3. 5	擁壁工事に伴う立会調査。寺域北東部で地山を検出した。
158-5 次	山田寺跡	現状変更	1 m ²	2010. 1. 18～3. 8	電柱支線の付け替え工事に伴う立会調査。遺構面に達せず。
158-6 次	山田道	現状変更	826 m ²	2010. 1. 13～2. 17	農水路改修工事に伴う調査。斜向溝1条などを検出した。
158-7 次	大官大寺跡	現状変更	98 m ²	2010. 2. 17～ 2. 19	
農水路改修工事に伴う調査。					
このほか、昨年度末に第152-8次として行った古宮遺跡の調査成果を、今年度の紀要で報告した。					
第158-3次調査瓦検出状況					
					
【実績値】					
論文等数 3件(①～③)					
出土遺物 青磁1点、丸平瓦1箱(以上158-3次)、丸平瓦1箱(158-5次)					
記録作成数 遺構実測図4枚、写真(4×5)14枚(以上158-3次)、遺構実測図1枚(158-5次)					
【備考】					
①「2009年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要2010』2010. 6(予定)					
②木村理恵・石田由紀子「古宮遺跡の調査－第152-8次」『奈良文化財研究所紀要2010』2010. 6(予定)					
③木村理恵「古宮遺跡の調査(飛鳥藤原第152-8次)」『奈文研ニュース』No. 33、2009. 6					

自己点検評価調査

研究所 No 81

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 適時性：開発行為に対応する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対する協力 継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず、調査を継続して行った。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間7件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

業務実績書

研究所 No 82

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修((2)―①)		
【事業概要】 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。 研修受講者のうち平均 80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。			
【担当部課】	企画調整部 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 肥塚 隆保 業務課長事務取扱 多 昭彦
【スタッフ】 小池伸彦 [企画調整部]、今西康益、石田義則 [以上、管理部] 研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。			
【主な成果】 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 12 課程の研修を実施し、延べ 130 名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。			
【年度実績概要】 専門研修 12 課程を実施し、延べ 130 名が受講した。 また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。			
専門研修	遺跡探査課程	実施期日(日数)	定員 受講者数 満足度
	建築遺構調査課程	6月2日～6月5日 (4日)	10人 3人 100%
	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	6月15日～6月19日 (5日)	12人 14人 100%
	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月7日～7月23日 (17日)	10人 7人 100%
	古代陶磁器調査課程	7月23日～8月6日 (15日)	10人 9人 100%
	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	9月1日～9月9日 (9日)	12人 9人 100%
	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	10月15日～10月23日(9日)	10人 9人 100%
	遺跡地図情報課程	10月23日～10月30日(8日)	10人 7人 100%
	自然科学的年代決定法課程	11月17日～11月20日(4日)	16人 15人 100%
	遺跡整備活用課程	11月30日～12月4日 (5日)	12人 7人 100%
	報告書作成課程	1月12日～1月22日 (11日)	12人 15人 100%
	地質環境調査課程	1月28日～2月5日 (9日)	16人 21人 100%
		2月16日～2月24日 (9日)	12人 14人 100%
【実績値】 実施課程数 12 課程 受講者数 130 人 受講者の満足度 100%			
【備考】			

自己点検評価調査

研究所 No 82

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応 独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性 発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上 効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性						

2. 定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	B	A			
備考 実施課程数 12 課程 受講者数 130 人 受講者の満足度 80%以上						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。受講者は、当初予定した受講者数をほぼ(90%以上)満たす受講者となった。また、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている回答を得ている。これらのことから、総合的に判定し、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当年度は計画どおり 12 課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の 142 人に対し 130 人であった。 研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』と『思う』との回答が 100%という結果であった。 研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。

業務実績書

研究所 No83

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修((2)-(2))		
【事業概要】 近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術を講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎 武志
【スタッフ】 佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)			
【主な成果】 第26回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。			
【年度実績概要】 今回で26回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を7月13日から7月24日の2週間実施した(参加者31名)。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は千葉県立中央博物館で実施し、4人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行い、結果を発表、質疑応答を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と、方法論を習得した。 また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を6月22日に実施した。今回のフォローアップ研修は、近年の省エネ化要求への動きなどを踏まえた、最新の基礎的な保存環境論をプログラム内容とした(参加者69名、満足度100%)。 さらに、資料保存地域研修を11月27、28日の2日間、愛媛県美術館において開催し(愛媛県博物館協会、およびえひめミュージアム研究会との共催)、温湿度や照明といった保存の基礎に関する講義を行い、好評を得た(参加者51名、満足度97%)			
【実績値】 実施回数 1回 研修受講者数 31名 受講者の満足度 97%(アンケート回収率100%)			
【備考】			



自己点検評価調書

研究所 No83

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 昭和 59 年以来毎年実施している当研修は、学芸員にとって自然科学的視点からの保存環境に関する知識と技術を学べる唯一の機会であるため、2 週間という長期にも関わらず、毎回多くの参加者があり、高い評価を得ている。カリキュラムは固定することなく、その時の保存環境を取り巻く状況、および新しい研究成果を勘案し、常に検討を行い、必要な修正を続けている。また、研修終了後も修了生に対しては、またフォローアップ研修などを通じて、最新の情報を提供している。さらに、受講生とスタッフの間には、インターネットを利用した情報交換や相談を行うネットワークを構築しており、修了後、勤務館において研修で学んだことを実践し、またその成果を共有できる体制を作っている。						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考 本年の学芸員研修には全国の国公立、また私立の博物館や美術館から 31 名の保存担当学芸員が参加した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研修参加者数、アンケートによって得られた参加者の満足度も申し分ないものであった。また、ケーススタディ実習での各参加者の成果は、2 週間の講義と実習が十分伝わっていることを反映したものであった。これらの理由より、当判定とした。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	学芸員研修、フォローアップ研修ともに、毎年順調に実施しており、参加者数、満足度ともに申し分ないものである。カリキュラムについては、今後も様々な状況を勘案しながら、改善を続けていきたい。特に、省エネ化への流れを見据えた内容へのシフトは、今後重要になるだろう。

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7231

業務実績書

研究所 No84

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)((2)-(3))		
【事業概要】 1995(平成7)年4月より東京藝術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。 各講座3名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】 石崎武志、佐野千絵、木川りか、川野邊 渉、中山俊介、北野信彦(以上、保存修復科学センター)、鈴木規夫(所長)、間渕 創(東京藝術大学非常勤助教、客員研究員)			
【主な成果】 次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習(北野)、保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石崎、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野)			
【年度実績概要】 次に上げる講義と演習を各教官が担当した。 文化財保存学演習(北野)、保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石崎、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野) 保存環境学計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化財の材質にどのような影響をあたえるか劣化を防ぐにはどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。 保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。 修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。 修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7231

自己点検評価調書

研究所 No84

1. 定性的評価

観点	発展性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。

業務実績書

研究所 No 85

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ((2)―③)		
【事業概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】 松井章、小野健吉、小澤毅(京都大学客員教授)大河内隆之、高妻洋成、清水重敦(京都大学客員准教授) 小池伸彦、渡邊晃宏(奈良女子大学客員教授)次山淳(奈良女子大学客員准教授)			
【主な成果】 京都大学大学院人間・環境学研究科において6名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において3名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を行った。なお、平成21年度の受入学生数は京都大学51名、奈良女子大学9名であった。			
【年度実績概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野(客員)〕並びに奈良女子大学大学院人間文化研究科における平成21年度の実施状況については下記のとおりである。 ①小野健吉 「日本庭園文化論1(後期)」【修士課程4名】 ②清水重敦 「文化的景観論1(後期)」【修士課程5名】 ③高妻洋成 「共生文明学研究Ⅰ(通年)」【修士課程2名】 「保存科学論1(後期)」【修士課程4名】 「文化遺産学演習6B(後期)」【修士課程4名】 ④小澤 毅 「遺跡調査法論1(後期)」【修士課程4名】 ⑤松井章 「共生文明学研究Ⅰ(通年)」【修士課程1名】 「共生文明学Ⅱ研究(通年)」【修士課程2名】 「環境考古学論1(前期)」【修士課程10名】 「文化遺産学演習4A(前期)」【修士課程3名】 「文化遺産学演習4B(後期)」【修士課程1名】 「文化遺産学特別演習1(通年)」【博士後期課程2名】 「文化遺産学特別演習2(通年)」【博士後期課程2名】 「文化・地域環境論特別セミナー(通年)」【博士後期課程2名】 ⑥大河内隆之 「年輪年代学論2(前期)」【修士課程5名】 ⑦小池伸彦 「文化財学の諸問題Ⅰ(前期)」【博士後期課程2名】 「文化財学の諸問題Ⅱ(後期)」【博士後期課程2名】 ⑧渡邊晃宏 「歴史資料論Ⅰ(前期)」【博士後期課程3名】 「歴史資料論Ⅱ(後期)」【博士後期課程1名】 ⑨次山淳 「歴史考古学持論Ⅱ(後期)」【博士後期課程1名】			
【実績値】 受入学生数(延人数) 京都大学：51名、奈良女子大学：9名			
【備考】 教官研究費及び学生の教育費は連携大学が支出			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7232

自己点検評価調書

研究所 No 85

1. 定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 効率性：研究水準の社会的評価 適時性：時代の要請 発展性：若手研究者層の充実、人材確保						

2. 定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学との協定に基づき、計画的かつ継続的に実施している。